

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎日朝礼で唱和している。暗唱できる職員もいる。理念を職員で考えた。入居者様の尊厳を大切にしながら「できることは自分でしていただきできないところは手伝いする」ことを重視している。	今年に職員全員で検討し新しい理念を作成し、ユニットの共有スペースに掲示しています。理念は毎日の朝礼で唱和し、職員全員で確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練に職員と一緒に参加したり小学生が授業の一環で施設見学に来られ交流を深めた。今後は、盆踊りや祭りに参加する予定である。施設としてバーベキュー大会を計画中である。	町内のお祭りや防災訓練にもご利用者と一緒に参加するなどの交流が行われています。また、ホームのバーベキュー大会に近所の方に参加して頂いたり、小学生の体験学習も受け入れるなどし、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関しての勉強会を行ったり研修に参加している。 コミセンでの活動に参加し当施設を紹介し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様とその家族様、町内会長、消防団の方に参加していただき意見を聞いている。	運営推進会議は市の担当者、町内会長、地域包括支援センター職員、ご利用者、ご家族、消防団員から出席してもらっています。会議では事業所の活動内容や入退去の情報を報告し、参加者から頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	今年度は年6回の運営推進会議の開催が行われていませんでしたので、予定通りに開催できるように対応されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市役所の介護高齢課の職員1名と包括支援センターの職員1名に参加をお願いし事業所の報告をするとともに意見もいただいている。	市の担当者と包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいているほか、指導も頂いており、協力関係を築いています。また、市主催の地域密着型サービス事業所連絡会も定期的に参加し、情報を交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設内では施錠をふくめ身体拘束を行っていない。 身体拘束についての研修も行っている。 2階の階段のドアの施錠は昼は開錠している。	身体拘束は行わない方針のもとに、玄関の施錠も夜間のみとしており、事業所内でも研修を行い職員の理解も深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の理解を深めるために研修を行っている。虐待事例があった場合は朝礼で報告している。	虐待の恐れがあるケースは現在はなく、職員の言葉遣いについても指導したり、身体拘束同様に虐待についての職員研修が行われ理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用されている方が2名いる。日常生活自立支援事業、成年後見制度について学ぶ研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書・重要事項説明書を併せてご家族に説明を行い承認を得てから利用を開始している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情など言いにくいこともあるので意見箱を設置して意見を集めるように努力している。また面会に来られた際に意見を聞いている。	事業所の敬老会や運営推進会議にもご家族に参加していただいております。ご家族会も開催し、ご家族同士で意見交換をする機会も設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場に入り職員とのコミュニケーションをとっている。定期的に面談を開いて悩み等を聞いている。	毎月全体会議を行い、意見を吸い上げるようにしているほか、管理者も現場で業務を実際に行う中で、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。また、半年に1度は個々に面談を行い、直接職員からの意見を確認できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護従事者処遇改善の申請を行い給与を見直したり年2回、職員に自己評価をしてもらいそれに基づき給与の査定をしている。勤務においても希望を聞いて調整を行っている。休憩をきちんと取れる事、残業しないようにすることなど労働環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に行っている。研修案内がきたら全員が閲覧している。介護力委員が毎日の課題を設定し取り組んだり職員が毎月1回勉強会としてプレゼンテーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームと研修を行っている。事業者連絡会に参加し同業者及び他職種との意見交換に努めている。研修に参加し同業者との交流を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に何度か面談を行いアセスメントを充分に行っている。入居者様とのコミュニケーションを積極的に図り想いを傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での連絡やアセスメントに努めている。場合によっては訪問を行っている。面会に来られた際に声かけをさせていただき困っていることなどあれば面談室を使うなど話しやすいよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン原案の内容を家族に説明するとともに、要望を伺っている。本人様、ご家族様の置かれている状況を踏まえサービスに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作り、家事などの一部を入居者様と職員で行うようにしている。貼り絵や作品づくりも参加してもらっている。夏場は、草とりも職員としていただいている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月に1回、広報を送付している。その中に担当職員がコメントをいれている。気持ちよく面会にお越し頂けるよう接遇を意識している。また、通院介助をされる家族には感謝の気持ちで接するとともにご本人の体調について文書にまとめてお伝えしている。	月に1度は担当職員がご利用者毎にコメントを記入した事業所広報を送付し情報を共有しているほか、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援や誕生祝いとしてご自宅周辺をドライブしたり買い物にいたりしている。面会者には感謝の意を表すとともに、顔、名前、ご関係の把握に努めている。	ご家族や知人、以前に利用されていた事業所の介護職員にも面会に来て頂いたり、お盆に自宅に帰られたり、柏崎の祭りであるえんま市にも出かけるなど、今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように家事などを入居者様と職員で一緒に行うように共同の活動に参加を促している。お1人がお好きな方には、居室で話をしたり他入居者様と交流が図れるように職員が介入している。散歩などもおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	引き継いだサービス機関と連携を図ったり家族から相談があったら解決の方向で対応している。 記録保存の義務を厳守している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のミニミーティングの時間に情報交換を行い入居者様の意向の把握・実施に努めている。 それぞれのユニットで連絡ノートを活用している。	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を確認し、情報の蓄積と職員間で共有が行われています。	調査時点で介護計画に対するご家族の意向の確認が行われていない方もいましたので、全てのご家族に意向を確認されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにより入居者様のこれまでの生活歴を把握している。ご本人と家族に話すことによりなお詳しい情報を集めるように努めている。	センター方式を使用し、これまでのケアマネジャー、ご家族やご本人に聞きながらこれまでの情報の把握し、フェイスシートを作成しています。	アセスメントの期間を事業所として決定し、ご利用者の生活歴やなじみの暮らし方に関して把握し、書類を作成し、職員間でも共有されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にモニタリングと再アセスメントを行いその方の能力の把握に努めている。今後の課題等を挙げ検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、派遣看護師と協議の上、介護計画を作成している。	介護計画については3ヶ月に1度モニタリングが行われており、6ヶ月に1度はサービス担当者会議を行い、意向を反映した介護計画を作成しています。	調査時点で介護計画が見直されていない方や、モニタリングが行われていない方もいましたので、今後定期的に行われるようにされることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に検討すべき項目の多い入居者様の個別記録は詳細に記入するとともにユニット職員全員が目を通すようにしている。また、記録に基づきモニタリングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の声に耳を傾けており「個」として見つけたアセスメントを心がけ、介護計画を作成、実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書が好きな人の為に移動図書を利用している。1か月に1回入れ替えがあり入居者様の意見を聞き本の種類を変えている。えんま市、公演会など外部の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には受診はかかりつけ医としている。緊急時には総合病院への受診も対応している。通院介助は必要に応じては家族と一緒に主治医に相談に伺ったりしている。	ご家族と職員が状況に合わせて受診支援をしています。医療機関にはご利用者の経過をまとめたお手紙を渡したり、直接連絡するなどして情報提供を行なっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に訪問してもらい日々の健康管理を行っている。夜間時にも電話相談の対応をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には定期的に面会に行き状態の把握をしている。各病院のソーシャルワーカーと連携を図り退院に向けての相談、病状の把握が円滑にできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階でグループホーム入居の対象者の説明をしている。生活をする中で状態の変化がありグループホームでの生活が困難と予想された場合納得されたうえで特養の申請をしていただいている。終末期の方に関しては同意書を記入していただいている。	契約段階で管理者は、中間施設を前提としたホームであることを伝えています。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、個別の同意書を用意するなどし、ご利用者の状態に応じてその都度話し合いを行ってまいります。	事業所の重度化対応の支援方針について文章にまとめ、契約時にご家族にお渡しされることを期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備している。普通救命講習は社員全員がうけている。	全ての職員が普通救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し有事の際に備えている。また災害時には町内会長にも連絡がとれる体制にしている。	日中や夜間の火災を想定した避難訓練を年2回実施しており、地域の方にも参加して頂いているほか、地域の避難訓練にも参加しています。事業所には、非常用の食品や水の準備も確保されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念にもある一人ひとりの尊厳を大切に認知症が進んで言葉の理解力が低下している入居者様には特に丁寧な声掛けやジェスチャーを心がけている。時には指示的な言動もあるので接遇の課題である。	ご利用者の呼び方や言葉の使い方については職員に指導しています。また、広報誌への写真の掲載についても契約時に個々に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者様の話や話を聞くという姿勢を持ち、希望があった場合には速やかに実現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアルはあるがそれにとらわれず入居者様の希望や状態に応じて柔軟に対応している。また活動を強制するのではなく、利用者様のしたいことをしたいときに提供するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧されている方には継続して行っていたいっている。 身なりが崩れていれば整えたりしている。起床時には適切な支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルふき、野菜切りや盛り付けなど個々能力に応じてしていただいている。歩行が安定されている方には下膳をお願いしている。また職員も入居者様と食事をとり食事の内容についても聞いたりしている。	ご利用者のできる範囲で調理や味付け、後片付けなどに参加していただく場面もあります。また、ご利用者と一緒に外食に出かけたり、柏餅作りやカレー作りをするなどの取り組みもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁食、小盛、刻み、お粥、ミキサー、その方合った食事形態で提供している。水分補給の時間も確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後の口腔ケアを実施し磨き残しがある方には介助している。その方の能力に合った支援をしている。 義歯は夜間、洗浄液につけて清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使って定期的にトイレ誘導を行っている。朝食後には必ず便座に座っていただいて排便を促している。	排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な排泄誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多く摂取できるように促している。施設内を歩行していただいたり腹部のマッサージを行っている。また、医師と相談しながら内服での対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があった場合は無理に誘わずに時間を置いたりしている。週2以上入浴していただいている。	ご利用者の好みの時間帯に入浴していただけるように支援しておく、入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるように努めています。	調査時点で、ご利用者の意向に関わらず入浴期間に空きがある方もおりましたので、今後改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように日中は極力活動できる機会を設けている。ただそれぞれの生活習慣がある為、気兼ねなく休める場所を確保している。 安眠が得られるように湿度・温度管理を巡回時に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに服用している薬の一覧表をとじ、職員に周知してもらっている。服薬時は薬セットと服薬前、それぞれでダブルチェックをし誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割が持てるように作業をお願いしている。イベント時は飲酒が好みの方にはノンアルコール飲料を提供したり楽しみが持てるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩にでかけたり、回覧板届を手伝っていただいている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせてお花見やえんま市、紅葉見学に出かけるなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設だが買い物に出かけるときには持参し自分の好きなものを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望があった場合には職員を通してかけるようにしている。 手紙に関しての事例はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るすぎず暗すぎずを心がけている。また、季節の花や物を飾ったり季節感を味わえるようにしている。	共有スペースには置の小上がりがあり、食堂のテーブルには職員が持ってきた季節の花が飾られており、飾られている写真やご利用者の作品も季節に合わせて変えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き話をされている。居室があるので個別のプライベートルームになるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物をお持ちいただいている。生活しやすいように家具の配置をしている。認知症の進行に伴いなじみの物が混乱を招くこともあるので撤去させていただくかたもいえる。	居室には、テレビ、ダンスなど慣れ親しんだものを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内いたるところに手すりが設置されていて、安全に移動できている。居室やトイレがわからなくなる方がいらっしゃるのでわかりやすいように目印になるものを貼っている。		



**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない